

第12期 松戸市緑推進委員会  
第8回 委員会

1. 日時 令和5年12月18日(月) 10:00~12:00
2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館5階)
3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・木下 剛・小谷幸司・平岡 考・藤田博美・藤田 隆・上野義介・榎谷有三・  
並木能子・河野芳久・増木宏行

○松戸市

保木正継 (街づくり部 審議監)  
布施 優 (公園緑地課 課長)  
若林 稔 (21世紀の森と広場管理事務所 補佐)  
高橋博巳 (公園緑地課 主査)

○兼事務局(みどりと花の課)

三末容央(課長)・木村高德(補佐)・木原 茂(補佐)・中山 茜(主査)・今井涼太(主事)・  
岩田 昇(主査)

○松戸みどりと花の基金

田辺久人 事務局長

○傍聴 1名

事務局より本委員会の成立について、委員人15名中11名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

- 1 開会
- 2 議事
  - 1) 議事要録の確認
  - 2) みどりのシティープロモーションについて
  - 3) 次期市民委員募集テーマについて
  - 4) サロン部会からの報告
  - 5) その他

3連絡事項

4閉会

**議事1) 議事要録の確認について**

配布資料の手違いにより次回委員会に持ち越し

**議事2) みどりのシティープロモーションについて**

**会長**

2) みどりのシティープロモーションについて、事務局から説明をお願いします。

#### 事務局

それではまず、お手元の資料確認させていただきたいと思います。

資料1としてスケジュールと審議項目。

資料2として、メッセージブック。

資料3として、メッセージブックの編集方針。

資料4として、第13期松戸緑推進委員（市民）募集について。

資料5として、みどりの市民フォーラム2023実施報告書。

追加資料として、みどりの愛護について、東松戸ゆいが花公園クリスマス会のチラシ。

以上が本日の配付資料です。

過不足がございましたらおっしゃってください。

また本日は、その他の資料として、晴耕雨読の冊子を回覧させていただいております。こちらは来年の12月に、松戸のオープンフォレストが特集の記事で予定されています。

#### 会長

来年の12月となると1年後ですね。

#### 事務局

それとは別に、New草花あそび研究所の相澤所長の作成した本につきましても、今日の委員会のメッセージブックの方で取り上げる内容がありますので、こちらも一緒に回覧させていただきますのでご覧ください。

資料1、スケジュールと審議項目をご覧ください。

第7回、第8回との間に、事務局としてメッセージブックの編集方針の修正とメッセージブックに載せる取材となっております。モニターの方をご覧ください。

資料2と別のメッセージブックがございまして、まずこちらのメッセージブックが、前回のメッセージブックと今現在お手元にあるメッセージの間に作ったメッセージブックの修正版でございます。

前回の委員会でメッセージブックのターゲットが「子供を自然に触れさせたい、手軽に自然体験ができる場所を求めている幼稚園と小学校2年生をお持ちの37歳の女性」が、ペルソナとしてご提示されましたので、それに委員会でいただいた意見、興味のあるタイトル、冊子名、等のご意見がございましたので、それらを盛り込んで全体の内容を見直して変更しております。

内容については、第11期緑推進委員であった、江口さんが進めている、エディブルウェイの活動について、子供向けのプログラムがあることや、プロジェクトメンバーに子育て世代が参加していること、また来年度にエディブルウェイが市との協働事業に採択されていることから、今回子育て世代に魅力をお伝えしたいと思い、江口さんにインタビューをお願いし、ご了解を得ることができました。

ただ所用により予定していた取材を延期しておりまして、現在まだ江口さんへの取材ができてない状態でございます。

取材延期のお話の中で、江口さんと取材内容について再確認したんですけども、江口さんのお話の中で、「下はお子様から上は90代までの方が参加していて、どの世代も参加できることがエディブルウェイの強みと感じている。」ことから、今回のように「子育て世代」という1つの世代をターゲットにすることに、メンバー内で違和感を感じているっていうことをおっしゃられてました。

また、現在のプロジェクトメンバーの体制で、市がこういった形で多くの冊子を配布することによって、大きな反響があった場合に対応ができないという不安感があるということがわかりましたので、そこら辺を再度見直して、次のメッセージブックの作成に移っております。

その件でメッセージブックにおいて何を取り上げるかということが非常に難しいと感じましたので、先日開催されましたサロン部会の中でご相談させていただいております。

資料1の裏面の方をご覧ください。こちらが、メッセージブック作成のスケジュールでございます。メッセージブックの取材を1月末ぐらいまでに終えて、最終的なデザインとか取材記事の内容の編集、その辺を2月末までに終わらせて、3月に試作品として1500部ぐらい製本したいと考えております。

製本されたものについては、できれば春に開催されます「緑と花のフェスティバル」で配ることを考えております。

関連ホームページや関連動画の項目がございますが、メッセージブックを取り上げる取材など、もう少し深掘りしたいというご意見とか、そういうページがあった方がいいということが、前回の委員会でありましたので、取材する際にその取材場所で動画撮影とか、ネタとしていろいろなストックとなる素材を集めたいと考えております。集めた動画につきましては、今後のプロモーションの材料となります。

次に資料3をご覧ください。

編成方針につきまして、前回委員会でのご指摘を元に修正箇所がわかるように見え消しで修正しております。黄色いところが消すところで、赤いところが追加や変更をしたところになっております。

こちらは引き続き、プロトタイプメッセージブック作成の過程で、今後様々な問題が出てくると思いますので、反映させながら、引き続き修正と編集をしていきたいと思っております。

資料2のメッセージブックにつきまして、事務局の中山より説明させていただきます。

## **事務局**

それでは、資料2のメッセージブック（案）をご覧ください。

こちら全12ページとなっております。

まず構成から説明させていただきます。

巻頭のページには、前回の緑推進委員会でご意見を賜りました、人を引き込むための、ワクワクするような特集を掲載しています。

記事は松戸市在住のNew草花あそび研究所所長の相澤先生の取材見開き3ページです。

次に、エディブルウェイプロジェクトを見開き1ページ。

そして最後の見開き1ページに、「7つのライフスタイル」、「みどりの基本計画」、「みどりの市民憲章」を掲載します。

記事の内容について説明いたします。

巻頭の特集見開き3ページは、身近なもので遊べると良いと考え、草花遊びを研究されている相澤先生の特集としました。

身近なHow toを入れて草花遊びをすることによって、それが自分事になるのではないかと。また、この誘導が自然とみどりへの関心に繋がるのではないかと考えております。

相澤先生は、身近な草花で多様な作品を作り、X（旧Twitter）やインスタグラム、Youtube等で大変人気のある先生で、回覧している資料のような草花遊びの本も数冊出版されています。

幼保育園や図書館などでワークショップを開催したり、松戸市でも21世紀の森と広場で、散策をしながら作品を作る講座をお願いしたこともございます。

最初の1ページは、相澤先生と親子が公園を散策しながら、落ち葉や木の実を拾って作品を作る過程を掲載します。

次の見開き1ページには、相澤先生へのインタビュー記事を掲載します。次の見開き1ページには、手軽につくれる作品の紹介を掲載します。

相澤先生への取材は1月を予定しています。

次がエディブルウェイのページです。

こちらについては、今までの活動の紹介や次年度から展開を予定しております、松戸市との協働事業のスタートを掲載します。

こちらドキュメントとして事業の展開を追い、連載していくことが面白いのではないかと考えています。

右のページですが、「コンテナ菜園について」というところは、記事の分量次第で、How Toとして掲載したいと考えております。

そして、最後の見開き1ページは「1つのライフスタイル」、「みどりの基本計画」、「みどりの市民憲章」につながります。

説明は以上です。

#### 事務局

メッセージブックの作成については取材や編集に様々なご意見が必要なことを痛感しておりますので、今後は事務局とサロン部会で進めて参りたいと考えております。

また次回の推進委員会は3月26日に予定しているため、メッセージブックの最終稿を委員会でお見せすることができなくなります。

本日はみどりのサロン部会と事務局でメッセージブックの編集を進めていくことへのご了承と資料2のメッセージブック、資料3の編集方針についてですね、ご意見を賜りたいと考えております。

#### 会長

最初のスケジュール通りには、先方との色々な折衝の過程で思ったようにできないということですので。状況としては、3月までにメッセージブックの試作品を作りたいというスケジュール感からいうと、今日はあらかじめ出来上がったもので、ご意見を伺いたいということだと思っておりますが、うまくいかないところがあったので、今日はこういう形で出てきています。試作品の最終案については事務局とサロン部会にお任せいただきたいということでございます。

また、様々な意見を言う委員会としては、本日が最後になりますので、意見を伺いたいということです。

最終案が出来上がったら委員の皆様に見ていただく機会も設けていただきたいなと思っております。

まず、資料2と資料3について、ご意見をお伺いいたします。

私の方から質問ですけれども、相澤さんには取材のアポイントメントは取れていて、メッセージブックの趣旨等について、ご理解していただいているということによろしいですか。

**事務局**

はい。相澤さんのことは江口さんからご紹介いただきました。先日12月10日に、一緒にクリスマス飾り作ろうという講座を開催するというので、事務局で講座を受講しました。相澤さんは21世紀の森と広場で講座を開いております。

**事務局**

好意的に捉えていただいていると思います。相澤先生の方としても、これからいろんな繋がりを作っていきたいという中で、是非というふうに言ってくださいました。

**会長**

松戸にお住まいの方でしょうか。

**事務局**

はい、そうです。

**会長**

メッセージブックを作る過程で新しい人脈を引き寄せるといった側面もあり、いいことだと思います。

エディブルウェイについても、見開きで追っていくという形についてはご了承いただいているのでしょうか。

**事務局**

エディブルウェイへ取材日の調整をしていただいております。連絡が来ましたらお話しようと考えております。

**会長**

わかりました。ありがとうございます。

前回との変更点としていかがでしょうか。アイコンを作ったようですね。

**事務局**

表紙を出していただきたいと思います。

前回、冊子名が固いということで冊子名をゴロが良いので、「東西南北古今東西」という形にしました。

また、表紙に興味を持たないと手に取ってもらえないということで、表紙については事務局で作成しました。夜の風景のエディブルウェイが綺麗でしたので使用していますが、写真から何をやっているかは分かりにくいので、手に取ってもらえるのではないかとということで作成いたしました。

**会長**

アイコンは前回から作っていましたか？

**事務局**

アイコンは前回から作っていました。

**会長**

これは、みどりの基本計画を実現したらこうなるというものですよね。  
ご意見いただければと思います。

**委員**

インタビューとペルソナについてです。まずペルソナの捉え方についてですが、ペルソナターゲット1人につき年1回発行ということですが、エディブルウェイにおけるペルソナはなんでしょうか。江口さんから違和感が表明されたということですが。

**事務局**

エディブルウェイの方から、特定のターゲットであることに違和感があるという意見がでたことをサロン部会で伝えたところ、ドキュメントとして追うことで、特定の世代にも全体の世代にも訴えかけることができるという話がでました。今回は、コンテナ栽培のやり方というような内容で掲載したいと思います。

サロン部会での意見ですが、まず、この37歳ぐらいの子供を育ててるお母さん方は、目に留まったもの、写真から入っていくことが多いという意見がありました。まずは写真から入っていただき、その後落ち着いたところで、文字も読むということなので、エディブルウェイの方でお子さんを育ててる女性のご意見や考え方、生活を少し載せられたらと思っています。

**委員**

エディブルウェイはペルソナを特定しない記事とし、また冊子は少なくとも、お二方ぐらいは取材されて載せると良いと思います。特定のペルソナ世代に特定される活動と特定されない活動があると思います。インタビューはもちろん必要ですが、参加された市民の方の、活動や、楽しさというものが、他の市民に伝わるのが大事だと思いますので、その取材をしっかりした方がよいと思います。

## 事務局

エディブルウェイと松戸市の来年からスタートする協働事業の最終的な目標は、市全体にエディブルウェイの考え方を浸透させていくことです。その活動をドキュメントで追い、その中で開催する市民向けの講座等の行事や、他団体との打ち合わせ等取材し、ドキュメントタッチを進めていきたいと思っています。また、最終的にはそれを基に、マニュアルのようなものができればよいと考えています。

## 委員

私も全く同じ印象を受けていて、この雑誌自体がプロダクトアウトではないのかと思います。そもそも、ライフスタイルを共感してもらい、ペルソナをメインに共感してもらいということが趣旨の冊子なので、最初にその参加者の話があり、最後に主催者の話があるという構成にした方が、趣旨にマッチする。

松戸市がエディブルウェイと協働事業をやるということは、市のプロダクトであり、市民にとって興味があるかというのは、別の次元だと思います。

協働事業については、後ろに持っていく方が、この冊子の趣旨としては成立すると思います。構成で対応できると思います。

## 会長

今のお話大事なところですよ。編集方針でいうと、2.メッセージコンセプトのところがかかわるかと思いますが、これからやってみようと思う参加する側の目線を、大切にすることだと思います。そこは編集方針として基本になっていくところなので、共通言語化し、編集方針に入れる必要があります。また、この先、冊子編集を緑推進委員会とは別のところで担っていくことになるので、このコンセプトを編集方針に入れておいていただければと思います。

他にございますでしょうか。

## 委員

この冊子を見て感じたのは、やわらかい写真が並んでいて、面白そうだな、楽しそうだなと感じます。ただ、冊子の趣旨にあるメッセージ、これで何を伝えるのかというところが、これ見た際に、ちょっと伝わりにくいかと思います。この冊子の目的が、パッと見てわかるようであれば、さらに効果的だと感じます。

## 事務局

ここの目的は、みどりのライフスタイルをやってる・やりたいなという気持ちがある方が、冊子を見たときに、このアイコンなんだろう？と後ろを見ていただき、みどりの基本計画ではこういうことを目的に、取り組んでるということがわかるようにすることです。読んでいただいた方・手に取っていただいた方に、目的を強制せず、みどりと関わりから、基本計画の最終的な目標につながることを目的としています。

## 委員

先ほどのご発言と関連しますが、「相澤所長とあそぼう」というのが、このメッセージブックのメッセージと受け取られてしまうので、みどりを利用して楽しく生活しているということ伝えるのであれば、それが伝わるように表現した方が良いと感じます。

#### 事務局

ごもっともなご意見だと思います。表紙の写真は、忙しい中でも目に入るだろうという考えからです。相澤さんは、落ち葉などの身近なもので楽しいものを作っています。公園に遊びに行った際などに、簡単に作ることができます。子どももそれを見て喜んだり、みどりに興味を持ってくれるのではないかと考えます。相澤さんの草花あそびで、いろいろなことが楽しめることを、この冊子でお伝えしたいと思っています。冊子の内容や順番を変えれば対応できると思いますので、サロン部会等でご意見いただきながら編集したいと思っています。

#### 会長

この「相澤所長とあそぼう」というところが違和感を感じるということですね。趣旨は、身近な草花で遊ぼうということですね。それが最後のみどりの基本計画に繋がります。相澤さんと遊ぶだけでなく、伝えたいことは、身近な草花で楽しく遊ぶということですね。

#### 事務局

順番を考えます。

#### 委員

冊子の季節感が秋っぽいので、春の様子も入れるなど、季節を通したものにしたいと思っています。

#### 事務局

申し訳ございません。最近写真を撮って載せましたので、今の季節の写真になってしまいました。先ほどご紹介した晴耕雨読の方も、来年の12月発行のものを今から取材しているということで、スケジュールの問題が、今回難しいと感じたところです。冊子を春に配りたいと思っていますので、そのときに使えるものが良いとも思っています。それをどうクリアするかが課題だと思います。

#### 委員

基本計画の実現に向けたアイコンを作りましたが、それが7つの章に分かれて、これを基にみどりの基本計画を進めていきたいということになると思います。一方でこの東西南北の冊子そのものについて言うと、このアイコンを1年ごとに特集のような、いわゆる核になるものを作りますという、ターゲットが37歳の女性で子育てしているという、意図はわかります。そこまではわかりますが、要は何を詰め込むみたいなコンセプトは何なのかという部分にブレが生じてるのかなという気がしています。相澤さんのお話とかエディブルウェイは題材であって、核があって練り込んでいくべきものかなと思いますが、その核が何かがまだ見えてこないの心

配しています。

#### 会長

例えば1ページ目に4つのアイコンがあるけれど、4つは多い。特集号ごとにコアが1つが2つあって、それを表現したほうが良いという提案です。

今回の案で考えると「遊ぶ」「食べる」になるような気がします。また、「育む」「集う」も含まれているようにも考えられます。このあたりを絞り込んでいった方が良いのか。いかがでしょうか。

#### 委員

いろんなことに関わっているのはいいと思うんですが、例えばここでは「遊ぶ」というのがやっぱりメインであれば「遊ぶ」のアイコンをちょっと大きくするとか、そういうふうにはいかがですかね。

このメッセージブックの趣旨は、市民の方がみどりと関わって、楽しく暮らしているという様々な暮らし方をご紹介するのがメインだと思います。このアイコンも暮らし方の種類を示しているだけであって、これがメインではなくて、こういう暮らし方ですよってというものの分類をわかりやすく示してくれて、それが最終的にみどりの基本計画の実現に繋がっていくということだと思います。イメージの種類が多岐に渡っているのは悪いことじゃないと思いますが、主にこれですというのをサイズ感で表すとか、そういうふうにしたらいかがかなと思います。

#### 会長

私もみどりの良さは1つの目的に集約されるものではないところが、いいと考えています。

みどりがあれば、心も癒されるし、学びにもなるし、いろんな意味を持つところがいいところなんだろうなというふうに思っていますので、おっしゃっていただいた提案については賛成したいと思いますが、皆さんいかがでしょう。

#### 委員

確かに今ご意見は市民の立場から見た場合には、すごくわかりやすいんじゃないかなという気がします。わかりやすいものでないという意味がないので、そういった絞ったところをうまく表現していただくと確かにいいような気はいたします。

#### 会長

ありがとうございます。

ではその方向性で考えていただきたいと思います。

このアイコンは事務局で作っていただいたようですが、何かSDGsと間違えそうな、今どこでもSDGsのアイコンが目に入ってしまうので。

#### 事務局

ちょっとそれを意識して作った部分もあります。似ていない方が良くもご意見あれば、いただければと思います。

## 会長

今回は緑推進委員会とかサロン部会とか、事務局で頑張って取材をしながら作りますが、今回の位置付けは試作品という位置付けになっています。

これを継続していくには、どうしたらいいか。

もちろん試作品で1500部ぐらい作って、配るんですけど、読者が見たフィードバックというか、これ見てこんな感想を持ったっていうものが反映されるようにしたいです。

市民の方々の感想なり意見をどうやって取って、よりよい編集方針なり、全体のイメージに近づけて、引き継げるか。今期はもう6月までなので、そこまでは、今期できちんとしておきたいっていうふうに思っています。

ですので、今日いろいろ言っていたことで修正があると思いますけど、その先はいかがでしょうか。

## 事務局

4月の緑と花のフェスティバルでお配りした時に、そこで手に取ってもらった方に話しを聞いてみたりとか、もしご連絡先とか伺えれば詳しいアンケートをお願いしてみることもちょっと考えてます。ここまではちょっとハードルが高いのかなと思っています。

## 会長

そういう機会に配るということなので、そのやり方も考えられればと思います。

## 委員

一番最初にある「相澤所長とあそぼう」の見だしのところが素敵だと思うのと、インタビューされる時に、この7つの切り口からインタビューされるとそれなりに整理されると思います。

アイコンは背景に四角にして、色をつけるからSDGsで見えるだけなので、色を逆転させれば、多分それだけで全然違うアイコンになると思います。

## 委員

編集方針の5番に「印刷版及びデジタル版を作成し」となっているが、いずれ公開を重ねていくのであれば、印刷版から何かしらの方法で、デジタル版の方にアクセスができるようにできるかというと思いますが、デジタル版はどのように掲載して、どういうふうに見えるような形にするとかっていうのは方針としてあるでしょうか。

## 事務局

一番最後のページの12番に追加しておりますが、こちらの内容についてはシンプルなものを考えております。

例えば後ろの方にあるQRコードの活用を考えています。QRコード自体は簡単に作成できますので、それを紙面に掲載しておいて、読み込むともうちょっと深掘りしたホームページなんか飛べるようにしたいと考えています。

市の関連のもので市のホームページにこちらの方は用意しようと思っています。今回ご紹介しています相澤先生もInstagramの投稿や動画で作り方を公開していますので、そういった情報もこちらの方に載せていければいいのかなと思っています。

紙媒体のものを作成して配って手元に置いてもらうことも非常に大切なんですけども、拡散するところについてはSNSとか設定したほうがいいのかなと思いますので、まずは紙媒体で一定のところに呼びかけて、その方々がちょっと興味を持ってもらえたら、SNSとかのデジタルに誘導することを考えています。

ただいま相澤先生の本を回覧で見いただいています、こちらにQRコードもつけてあるので読み取っていただければ、InstagramとX（旧Twitter）の方に飛ぶことができるので、お試しください。

#### 会長

では、メッセージブックについてはスケジュールのこともありますので、サロン部会と事務局の方で進めていただくということでよろしいでしょうか。

作業部会に参加されてる委員の皆さんもいらっしゃると思いますので、今この推進委員会で出たご意見を反映していただきながら、議論していただければと思います。よろしくお願いします。

このメッセージブックのスケジュール的には、3月までに作って、3月のみどり推進委員会でお披露目いただいて、それで4月の緑と花のフェスティバルで配布することになります。

これ作って「よかったよかった」という終わりじゃなくて、今の予定だと年1回出していこうという話です。ずっとやっていくには編集体制もデザイナーを入れるのか、誰が何を担当するのか、きちんとやっていくことと継続していくことを考える必要があります。

組織なり、やり方で、これを継続して発刊していける体制については、引き続き議論していきたいと思います。

#### 委員

資料1がちょっと気になったんですけど、備考欄にある「デザインを委託した場合、デザインは委託業者に帰属され」となっている部分はどういう意味でしょうか。

#### 事務局

何かの冊子や本を作成したときに、そのデザインは受注者の知的財産権に配慮した契約にすることが望ましいということです。

#### 委員

その編集社との契約事項で松戸市のものとすることもできるのではないですか。

#### 事務局

こっちに権利を持たせる契約では、高額になるということを聞いております。

#### 委員

例えばこれからSNSとか考えたときに、その冊子と同じようなデザインの画像をアップすることが考えられますが、編集者に著作権がある状態では、すごくハンドリング悪いのではないかと懸念があります。

民間で仕事をしていたときに役所の仕事では成果品として著作権も役所に帰属していたので、それが普通だと思っていましたが、今はそういう時代になっているということでしょうか。

#### 事務局

コンテンツバイドール契約という、こういった仕事をしているデザイナー等の権利を侵食しないようにという契約の考え方があります。

#### 委員

SNSとかに載せる時に、そこがネックにならないような契約の仕方みたいなものを考えてもいいと思います。

#### 事務局

今回これを作るにあたって、いろんな方とお話した時に、実は美大出身みたいな方や、デザイン・編集をする会社に勤めていたというような方もいたので、相談して、いろんな方をお願いして、こちらでまとめていく方法もあるのかなと考えていますが、その辺はサロン部会の皆様に相談していきたいと思っています。

#### 委員

後から不利益が逆に生じない契約にした方がいいと思います。

#### 会長

使い勝手が悪いと困ることもあるし、囲い込まれちゃうということもあると思います。逆に世の中では権利に関して、だんだんシビアになってきているところもありますので、うまくバランスを取りながら、やりたいなと思います。こういったことは契約の時にはっきりさせるものでしょうか。

#### 事務局

契約の時に、明記することはできると思いますが、費用面とかで折り合いつかなくなる懸念があります。

#### 会長

広報の方でそういう契約のノウハウとかがあっていうのはないんですかね。

#### 事務局

そうですね今回の議論についてのやりとりで、広報広聴課とシティプロモーション担当室とは連絡を取り合うようになってきていて、それを基に晴耕雨読に取り上げてもらったりしています。

あちらの方が専門となるような話しですので、わからないことについては打ち合わせしながら進めていきたいと思えます。

**会長**

ありがとうございます。大切なご指摘だと思えます。  
メッセージブックはよろしいですかね。

### 議事3) 次期市民委員募集テーマについて

**会長**

次期市民委員募集テーマについて事務局から説明をお願いします。

**事務局**

それでは議事3、次期市民委員募集テーマについて、事務局より説明させていただきます。  
資料4をご覧ください。

第12期緑推進委員会の任期が6月末となっております。4月からは第13期として緑推進委員会が始まりますので、6月末までに委員会の組織及び運営に関する規則において定められている、学識経験者4名以内、団体を代表するもの5名以内、市民委員6名以内で第13期緑推進委員会を組織する必要がございます。

市民委員については、公平性の観点から公募による募集、選考をさせていただいております。

市民委員の選考スケジュールについて説明させていただきます。

従来の選考スケジュールについては、4月1日号の広報に募集の旨を掲載し、5月上旬に締切としてレポートの提出をいただいております。

その後5月中頃から下旬にかけて、選考委員会を開催して市民委員の選考をしております。

市民委員の募集につきましては、毎回応募が少ないことから、前回の追加での市民委員の募集から応募資格を少し変更させていただいております。

こちらの資料に書いてありますけども、応募資格を「市内在住で、平日の会議参加できる人」から「市内在住、在学、在勤で平日の会議に参加できる人」と範囲を拡大しましたので、次の応募資格についても同様とすることを考えております。

応募期間についてですが、広報の掲載から締め切りまでの期間が短いので、今回の広報掲載は半月前倒しして3月15日号とすることを考えております。

また募集要項を在勤在学としてありますので、市内の大学とか、青年会議所の方に情報提供しまして、なるべく多くの応募を募りたいと思っています。

レポートのテーマは事務局案として「松戸に残したい緑について」とさせていただいております。

こちらは、来期の緑推進委員会の諮問事項として「フォレストマネジメントにおける里山の評価項目」を考えていることから、事務局案ではこのレポートテーマを提示させていただいております。

本日は、市民募集の募集要項の検討、レポートのテーマなどについてご審議を賜りたいと思えますので、よろしくをお願いします。

## 会長

ただいまご説明いただいた通りでございますが、ご意見いただけたらと思いますが、その前にフォレストマネージメントについて簡単にご説明いただけますか。

## 事務局

現在松戸市では民間所有の樹林地について、緑の条例を制定して良好な樹林地として保つための管理費の一部を助成しております。特別保全樹林地地区・保全樹林地地区として金額では年間「20～30円/㎡」のものとなっております。

助成の方法は、市内のどこでも「20～30円/㎡」で助成していき、その樹林地が周りからどういふふうに思われているのか、その樹林地が本当に市民から大切にされているものであるか。あとは訪れる人がいるのか、いないのか。最終的には良好な樹林地を、市の資産として残していきたいと考えておりますので、その樹林地に合った管理方法とか保存方法を検討するために評価を定量化したい。そのための評価項目が必要になります。

みんなに愛される樹林地であって欲しいし、そういった樹林地に残ってほしい。そこについては、市の方で今後どのような助成していくのがいいのか、ボランティアさんがその中でどのように活躍してもらうのがいいのか、評価を基に活動してもらう。そういった全体のシステムがフォレストマネージメントとなります。

## 事務局

わかりづらい面もあると思いますが、松戸市みどりの基本計画の90ページに記載がありますので参考にしてください。

## 会長

松戸市は日本全体で見ても民有樹林地の保全については進んでいる部分があります。

ボランティア入門講座もそうですし、特別緑地保全地区とか管理協定とか、かなり進んでる方だと思うんですけど、それにもかかわらず、現実的には樹林地がなくなっていってしまう状況がある。

そういうことを鑑みて、全体としてもう1回森のあり方を見直しつつ、ここは絶対守るとか、助成についても濃淡つけていくような対応を検討したいということです。

今回の資料を見ると、次期の委員会ではフォレストマネージメントが大きなテーマになるようです。諮問事項なので答申する形となります。

その審議をする次期委員会の市民委員の募集については、それに関係してレポートのテーマを設定したいということです。

## 委員

応募が少ないということですけど、資料4の表を見ると、過去の実績は一応その定員を下回ってはいないわけですかね

定員6名のところ応募6名だとギリギリ過ぎて心配なので、もっと高倍率が良いってことでしょうか。

### 事務局

そうですね。もう少し色んな方に応募いただきたいなと思っています。  
今回は特に緑の残したいってところで、様々なそういった思いの強い方には是非入っていただければと考えています。

### 委員

面白そうにやっているように見えるかどうかで応募数が変わる気がします。  
ちなみに、里やまボランティアとかは結構応募があるんでしょうか。里やまボランティアが楽しそうだなと思う人いるとけど「年に数回会議しています」というのを面白いと感じる人がどれくらいいるか。もちろん重要なことをやっていますが、なかなか発信も難しいなと思います。  
応募資格のある市民の人から見て、普段やっていることが「へえ～」って思える情報がないと人が集まってこないと思うんですよね。  
会議の様子をパチッと撮って、それこそSNSで発信して面白く見えるのか。大事なことをしているのが伝わるのか。なかなか難しい気がするというのが感想です。

### 事務局

今期の市民委員の方でも2名が途中で辞退していたりするところを見ると、やっぱり自分の楽しいといったイメージと、実際の委員会での会議をすり合わせるのが難しいと感じています。  
自分の持つみどりと感覚が違う、なかなかこの会議でついていくのが難しいのかなと思っています。  
その辺をレポートからも読み取ればなと事務局の方では考えています。

### 委員

なるほど、会議出してみて辞退された方がいらっしゃるんですか。

### 会長

どうしたら応募してくれるか、これは市民委員の方に聞いた方がいい気がしますが、いかがでしょう。

### 委員

レポートのテーマと、次期委員会のテーマというのは直結しないと感じます。  
一般的な緑のイメージは公園だとか街路樹、そういったイメージがあるので委員会のテーマになるフォレストマネジメントっていう、里やまとか樹林地のイメージがどうも繋がらないなと思います。  
「残したい緑」についてっていう広報が出たときに、里やまとか樹林地までイメージ出来る人は少数なのかなって感じは個人的にします。  
私は去年の市民委員の公募に応募したんですけども、「私の好きな松戸のみどり」というレポートからのイメージと、実際にここで議論していることは乖離があると感じています。

## 委員

私も追加で入った市民委員ですが、榎谷委員とほとんど同じ意見です。

「松戸に残したい緑」ってテーマでレポートを書くことと、松戸の緑をこうしたいなという意見を聞くというのはミスマッチだと思います。

自分の場合は「私の好きな松戸のみどり」っていうことで自分の思いを色々書いて出しているんですけども、追加で委員になったので余計そう感じたのかもしれませんが、実際に参加してみると「私が言いたいことってここの場で一言も言えないんだわ」という感じなんですよ。

だから議論の中についていくというのは、ついていけるにしても、募集されたテーマのイメージと自分が参加した意欲とがミスマッチだと感じています。

会長から市民委員の人の意見をとのことでしたのでお話ししていますが、自分でも参加してみても「応募したの間違ったかな」と感じました。

## 会長

なるほど、逆にお伺いしたいんですけど、この応募にあたって、緑推進委員会のことについて何か情報を手に入れたりとか、松戸市みどりの基本計画を見て、というようなことはありましたか。

## 委員

そういったことは全くなくて、広報に掲載されていた情報が参考という感じです。

## 委員

私の場合は、一応広報が出ていたのでそれを基に、松戸市はどういうふうな考え方で「みどり」を推進してるのかなっていう観点から、条例とかみどりと花の課のホームページとか、そんなものを拝見して、「私の好きな松戸のみどり」っていうことで、斜面林の話とかそういった話を書きました。

我々が書いて出したレポートと、ニーズと表現していいかちょっとわかんないんですけど、それは一致する必要あるんでしょうか。

## 事務局

いろんな方がいろんなご意見、本当だと思うんですけども。

次期委員会ではフォレストマネージメントを議論したいんだっていうことなんですけども、例えば市民委員として応募してくださる方が、森のことをよくご存知じゃなければいけないかといったら、必ずしもそうではないと思っています。

市民の皆さんに我々が期待しているのは、内部で「森が良い」「こんなものが良い」と言っただけで、それがちゃんと外に伝わっているものか、そこに伝わりやすいものになっているのか。外側の一般の方が、こういったことを見てどう思うのかっていう市民目線のところのご意見もいただきたいというところが一番でございますので、必ずしもレポートのテーマとその議論っていうところは一緒である必要はないと思っています。

ただ、こういった作文的なものを出していただいて、日頃どんなことを思ってるのかっていうと

ころを、審査する側は当然参考にしますので、先ほどの平岡委員のお話しにもありましたが、いっぱい応募があった方が、そういったところはレポートの中で伺いやすいと思っております。

#### 委員

募集の作文の趣旨っていうのは色々あると思いますが、私の極端な話しをしますと、私は職員を募集したり、部下になるアルバイトの人を募集したりするときに、他の部署ではしてないんですが、私は作文書いてもらいました。ただ作文で書いてもらうのは、「入ったらこうしたい」とかを言って欲しいわけじゃない。というのも、そういうことって、ちょっと器用な人は何でも耳に良いことは言えるので、私はそうじゃなくて、「最近読んだ本とか」とかの何でもいいテーマを3つくらい用意して、そこから1つを選んで書いてもらう。それで私は何を見るかということ、「筋道だった話ができますか」ということを基本的に見ているんです。

極論すればそういうことだってあるわけなんですけど、ここではある程度「みどり」のことに対する見識も見たいっていうことは当然あると思いました。

ここではむしろ「こういう人を求めます」っていうふうなことを書いてもいいのではないかと思います。

#### 委員

普通の市民は広報に掲載されている募集の記事を見るものだと思います。そこで関心があるテーマだったから、応募してみようかと思うもので、必ずしも河野委員みたいに条例を調べたりとか、そこまで勉強して応募するわけじゃないと思います。

広報にある数行の募集要項でアイキャッチして、自分は「みどり」に対して興味があるから、このテーマで自分の普段思ってる「みどり」について書いてみようと思いました。それで実際入ってみたら、「自分が思ってることはどこで言えるのかな」という感じです。追加だったから余計に最初から議論に入っていないという問題があったとは思いますがけれども、すごく違和感があったので、辞めた方がおられたっていうのは、なるほどなと感じました。

だから「今辞めたい」と言ってるんじゃないで、「勉強になるからやっぱり参加できてよかったな」という感想を持っています。

#### 委員

「みどり」が好きっていうのはみんな共通のことなんで、それでいいんじゃないでしょうか。

#### 委員

平岡委員が言われたように、募集の時には少なくとも「こういう人を求めます」、「緑推進委員会ではこういうことをやっています」、「ここで課してるレポートのテーマと活動内容は必ずしも一致するわけではない」というのも伝えておく必要はあるのではないかと思います。

#### 事務局

募集要項には、その辺が出ていませんので、松戸市のホームページの方に緑推進委員会の議事録とか緑推進委員会は何してますよということ載せてますので、この募集要項を見て応募する方

は見ただけでわかるかなと思っていましたが、見てないこともあるようです。「興味のある方はこちらを見てください」とかを書ければいいのですが、広報では行が限られてしまうので難しいです。

#### 会長

広報では、ただ書いてあるだけなのでQRコードを付けて委員会のことが分かるように出来ますか。

#### 事務局

緑推進委員会のホームページとかへ飛ぶように、QRコードが付けられるかは確認してみます。

#### 委員

企業が募集する場合に、事業内容を提示しないで募集してるようなものなので変えていきたい。

#### 委員

ある程度わかりやすく、2, 3行で「こういうことをみんなで話し合ってます」というのが分かれば十分で、あんまり「何と何の条例を勉強してから応募しなさい」としてしまうとハードル高くなってしまいます。

#### 会長

議論を行いますだけではなく、仕事の内容といいますか、今までやってきたメッセージブックや松戸市みどりの基本計画のような成果品の方がイメージしやすいかもしれないですね。議事録を案内されても見る人は少数な気がします。

#### 委員

国が政策を決めて、予算を決めて、それが県に降りて県の予算を決めて、市の予算を決めて、というような段取り・仕組みがあります。松戸市の設置している緑推進委員会も、その仕組みの1個なので、議論をするときには、その仕組みを頭の隅に描いてここに座っているというのが理想かなと思います。

#### 会長

今のところの議論では、レポートテーマっていうより、広報の仕方とかについての議論が中心になっていると思います。「緑推進委員会って、どんなとこなんですか」とか、もうちょっと自分が知りたいときに、深入りできるような広報の仕方があるのかなと思うので、そのあたりを工夫していただければという感じですかね。

レポートテーマについてはよろしいですか。

あんまりバチッと決めてしまうと自由に書けないし、見ているのはそこに関する知識とかではなくて、身近なものをどうとらえているかという感覚であったり、筋道が立っているかというところを評価したい。多分これは審査員によって違ってくるものだと思いますけど、逆にこのくらい

のテーマの方がいいのかなという気もいたします。

それから広報の方法についてはいかがでしょうか。

今考えられているのが市の広報紙、大学、青年会議所ということでした。最近若手たちの働き方も変わってきていて、平日も時間をとれる働き方をしていたり、フリーの仕事をしている人もいます。そういう中で、広報は新聞を取ってないと手元にいきませんし、今の若い人は、そんなに新聞を取ってないように思います。

緑推進委員会の募集に反応する人を増やしたい、現役世代の参加が難しい、という意見も分かりますが、ちょっと変わってきているような気がするので、広報だけでいいのかは気になるところです。

青年会議所ってというのは、どういうものでしょうか。

#### 事務局

青年会議所というのは、その地区の中で会議に参加したいよという方が、会費を払って所属している寄合とか組合のようなものになりまして、今回考えているのは「松戸青年会議所」という機関になります。どういう方が所属してるかというと、主にいらっしゃるのは経営をされてる方や、その跡継ぎの方が多いです。

自分の仕事以外に地域貢献活動に興味があったり、そういう勉強に熱心な方が多く所属してるような機関ですので、もしかすると緑推進委員会に興味を持ってもらえたり、みどり自体に興味を持ってもらえればと考えてアプローチしているところです。

#### 会長

こちらは新しくチャレンジするということですね。

#### 事務局

あと大学の方への呼びかけもやっていませんので、今回からとなります。

#### 委員

青年会議所というと、商店や中小企業の後継ぎみたいな方が多いので昔から地元に住んでる方の若い方になると思います。要するにアパートに住んでいるような新しい住民ではないので、そういう方もどこかで捕捉できればと思います。

#### 委員

そのあたりはSNSが一番いいのかなと思います。

#### 事務局

市の公式のSNSがあるので、そちらの方は掲載依頼をしてみます。

#### 委員

青学のイベントが近くなると、そのチラシとかをファミマとかローソンとかに置いてたりするの

で、簡単な紙ぐらいならコンビニなんかに入れてもらえるといいんですけどね。

#### 事務局

それについては、広報広聴課でそういうことをやっているというのは聞いているので、今回できるかどうかは分かりませんが確認してみます。

#### 委員

公園とかではいかがでしょう。21世紀の森と広場とかゆいのはな公園とか、大きめの公園でみどりに関心がある方が多いと思うのですが、そういったところで掲示したり配布したりはいかがでしょう。

#### 事務局

今お話の合った2つの公園は、管理事務所があるところですので相談してみます。

#### 会長

では、テーマは事務局案で幅広く集めるということによろしいですかね。

今回は広報の前倒しと、新しいところとして青年会議所とか公園とか、SNSで情報を流すことを模索して、できることをする。

それから緑推進委員会っていうのは「どんなところ」「どんな感じで仕事してんのか」「どんなことをテーマにしてやってきたのか」というような情報にアクセスしやすくするようなやり方を、ちょっと考えていただければと思います。

緑推進委員会の募集は今回、前回と同様に市内在住・在学・在勤の人というふうに拡大しております。市内在住者じゃなくても、住所は別のところにあっても、大学であったり、会社がある人は、応募できるっていうようになってます。

長期的な話になるんですが、資料4の裏面の下から2段目の欄のところにある市民の6定義メモでは、松戸市の協働まちづくり条例で書いてあることが載っています。他の市では、市民活動とか、まちづくり活動に関わるような活動してる人も、住所は市外であっても市民というふうに幅広く位置付けをしているという例があるということです。

今回は、いきなり他の市のようにとはならず、これについては条例を変えるとか規則を変えることになると思うんですが、他の市ではもうこういうところまで来てることを考えると、長期的にはこういう方々もこの場に参加できるような方向に出来るといいなと思っています。

これに関して何かご意見ありますか。

今日決めなければならないというわけではなく、ご意見だけいただければと思います。

1度拡大したばかりではありますが、その次はどうしようかと考えると、こういうことになるかなと思います。

#### 委員

多くの方に応募してもらいたいと考えた時に1つ思ったのが、Zoomでの参加を最初から前提に

しても大丈夫というようにできれば気楽にというか、応募してくれる人の幅が少し広がるのかなと思いました。

あくまで会議には、基本的にはここに来て参加するのが前提だけど、Zoomでも仕方ないってような感じなのか。Zoomでもいいから来てほしいというものなのか。

#### 事務局

現段階では、この「平日の会議に参加できる」というのは、対面での参加が可能な方と考えています。

世代の感覚にもよるのかなと思いますが、Zoom会議で意見を交換してまとめていくのは難しいかなと考えています。

#### 委員

自分もZoomでの会議はあんまり得意ではないですが、しっかりと意見を反映させて、フィードバックできるような形ができれば、問題ないのかなと思います。

それには大多数の方が対面で参加しているのが前提にはなるとは思いますが、市民委員の1人2人の若い人がZoomでの参加というのは、出来るかもと思いました。

#### 委員

今の意見は結構考えたほうがいいかなと思います。

僕らは対面がいいのは間違いないです。でも、自分のところの学生を見ているそうですが、この世代の人たちはZoomの方がいいみたいです。

うちのゼミも、たまにZoomでやりますけど、意見が活発に出ないかというのと、Zoomだと事前に準備したりする人たちもいるので、それが議論停滞させているとは思っていません。

そういったのも時代の移り変わりと捉えれば、3回に1回ぐらいZoom開催するとかもありかなと思います。

前回Zoom参加した感想を申しますと、1人2人がZoom参加というのは一番やりにくいと思いました。セッティングもする必要があるし、議論には逆に参加できないと感じました。

やるなら、「全員対面」「全員オンライン」のどちらかにしないと、やりにくい気がします。

増木委員のような若い人たちの意見っていうのは、ある程度本当に検討したほうがいいんじゃないのかなと思いますし、そうすると子育てをしている人も参加しやすくなるんじゃないかと思います。横に子供が居たりなんかしても大丈夫な状況になる。

#### 会長

そうですね。子育てをしている人は、今の会議形態だと預けられないと参加できないですね。

最近では学会なんかも、ちゃんと女性研究者が来られるように、学会の期間だけ保育所を用意して、そこにお子さんを預けて研究者が発表できるようにしていたりする。学会でもここまで来たんだっていう感じがします。確かに1人2人っていうのは、ゼミでやっても結構大変な気がします。

そういうことを考えると、可能性としてはあるのでやり方を考えていただければと思います。

それから、松戸市のまちづくりに参加してる松戸市在住ではない人については、これも流れ的には入ってきていただくような方向でもいいかなと思います。条例とかがありますので、そのままではいけないと思います。

緑推進委員会の仕組みの1つに部会というものがあります。サロン部会もそうですが、部会っていう仕組みの中では、松戸市在住とかは関係なくて、その部会の目的に合った人を部会のメンバーが呼んできて、緑推進委員会で承認すれば部会のメンバーになれる。その辺をうまくできないかなというふうに思います。

## 議事4) サロン部会からの報告

### 会長

それでは議事4について、事務局から説明をお願いします。

### 事務局

先月開催したみどりの市民フォーラムについて、サロン部会からご報告させていただきます。みどりの市民フォーラムは11月19日、日曜日、10時から午後13時まで。あそびの森in囲いやまという向かい側で開催されたイベントと合わせて開催しました。来場者は、事前招待者を含めて、延べ131名でございました。具体的な報告につきましては、藤田隆委員にお願いしていますので、よろしくお願いいたします。

### 委員

資料5の2ページ目のところに事務局から説明があった部分がありまして、④の実施結果に、来場者の内訳があります。

フォーラムは大きく2つに分かれていて、再発見ツアーを午前中にやって、その間、育苗圃でハーブボランティアさんと花壇のボランティアさんが準備をされています。

緑の再発見ツアーの方は、招待者9名プラス園芸学部から柳井会長、木下委員、岩崎先生、においでいただいて、院生の学生さんにも参加いただきました。

緑の再発見ツアーについては、3ページの下の方に記録写真があって、6ページ目にあるツアーマップのとおり、ここをぐるっと回って、常盤平駅、熊野神社、祖光院、金ヶ作自然公園、などを回って育苗圃までツアーしました。

参加者の感想としては、「こんなに緑が多いところがあったのね」という感想がまず一つ。あとは、「育苗圃に初めて来たわ」という招待者・院生の方がいらっしゃった印象です。

招待者の方については、まちづくりのコーディネーター、木工アーティスト、聖徳大学の先生たち、それから里山関連の研究者に来ていただきました。

ツアーのほかに、みどりのフォーラムのチラシが入っていますが、それをご覧いただくと下に、クエスト①って書いてあると思います。

こちらはクイズをこの中でやると、お土産がもらえるというようなことで、子供たちが囲いやまの森で遊んでいるので、こっちにもおいでという呼びかけができるようなクイズもやりました。

植木鉢に絵を書くと、球根と一緒に持って帰れるというイベントもやったおかげで、こんなに人がいっぱい来たのだと思います。

一番最後のページのところになりますが、今後の展望ということで検討事項が幾つかあります。育苗圃にどういう機能を持たせようかということで、みどりの情報発信、それから情報収集できるような場としての機能を持たせられるだろうか。

みどりの豊かさをどう伝えていくか。

育苗圃活用の事例づくりについて、これはもう千葉大の研究テーマでもあります。

活用のルールづくり。

市民団体が利用するための仕組みづくり。

メッセージ性を高める必要がある。

開放の方法としてはどんなものがいいかということ。

既存の団体と外部との繋がり、どうしたらいいだろうっていうようなこと。

金ヶ作地区のみどりを外に広めていく方法、手法はないだろうかということ。

ツアー参加者との今後の繋がりや連携体制を持っていく方法はないだろうか。

というような検討事項が、最終的に出ています。

#### 会長

はい。ありがとうございました。

これは千葉大の実習とも絡めてやりましたので、学生の演習参加者側の感想を増木委員にお願いします。

#### 委員

学生の参加者目線で見ますと、そもそも緑の再発見ツアーのような緑を対象に巡るようなツアーみたいなものが珍しいので、そういったことが初体験という方が多い印象でした。

みどり関係の活動に携わっていると、魅力的なみどりというと、囲いやまの森のような里やまのイメージになりますが、意外と学生の参加者目線から見ると、金ヶ作自然公園が魅力的だったようです。

これは僕の所感でもあるんですが、一般的な都市公園だとやっぱり緑の多さには限界がありますが、里やまみたいなものになると、あまり身近ではないという印象があります。身近に感じられつつも、自然もある程度感じられる金ヶ作自然公園が魅力的に映るといふのは、妥当なのかなという印象を受けました。

#### 委員

松戸市は市民の皆さんがいろんな育苗圃だけに限らず、囲いやまの森ですとか、再発見ツアーでは歴史研究会の方々が研究されていて、そういう活動の層の厚さっていうのは非常に強く感じました。

資料に関係の構築が大事って書いてありますけど、今回のイベントのように、そういったいろんな場所で活動されている市民団体の皆さんがイベントを通じて協力して繋がって、こうしたことができてるところがすごく良かったなと思います。

それぞれ活動の場所とか、目的は違うんですけど、こういうイベントのようなきっかけがあると、団体が繋がって1つのことが成し遂げられるっていうところが非常に大事だと思います。そういう

機会や仕組みをもっと増やしていけると、さらなる大きな力になるのではないかなと思いました。

**会長**

たまたま千葉大の方も、みどりと花の課と共同研究やりながら実習でも取り上げているところですので。そこに動きがあるので、緑の再発見ツアーとかフォーラムをやっていただいたってことは、とってもよかったかなと思います。

3月の終わりぐらいに演習も含めた公開の発表会をして、また皆さんの意見を伺ったり、それを期に関係作りをしたりということを考えておりますので、引き続きご協力いただければと思います。

## 議事5) その他

**会長**

議事5) その他となります。何かある方はいますか。

特にないようなので、これで本日の委員会は終わります。

**会長**

では、連絡事項を事務局よりお願いします。

**事務局**

はい。公園緑地課から連絡事項がございます。

**公園緑地課**

本日は2点ほど、ご報告させていただきます。

まず1点目ですが、全国みどりの愛護のつどいの誘致についてになります。

配布した緑色の資料をご覧ください。こちらは実際の報道で使われた資料となります。

誘致に成功した場合の主催者は、国土交通省、千葉県、松戸市、となりまして、実行委員会方式によって実施されます。

後援団体といたしましては、全国知事会、全国市長会、全国市町村会、となります。

今回の誘致理由につきましては、松戸市は豊富な緑資源を利用しまして先進的な取り組みを進めているということで、緑に関して全国的に高く評価されていること。また、大きなきっかけの1つといたしまして、令和6年10月に松戸緑の市民憲章制定から20周年を迎える節目となります。今後も緑の保全育成の取り組みをさらに推進していきたいと考えております。

誘致団体の想定といたしましては、これまで全国で開催されている内容を踏まえると、式典は森のホール21で、全国から集まったみどりの愛護団体による活動報告と表彰を中心に催しが行われると考えております。

式典後には、21世紀の森で記念植樹を行いたいと考えております。

式典に出席する方々は、全国みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰の190団体、千葉県都市緑化功労者知事表彰の90団体、議会関係者や国と地方公共団体関係者、職員と委託スタッフが500人程度と合計すると1500人程度となります。

松戸市の団体も表彰される見込みなんですけれども、表彰される市民の方以外は出席ができません

るので、動画配信などにより式典の様子をご覧いただけるよう、検討して参りたいと考えています。

式典開催日は、令和7年4月から6月のいずれか1日となる見込みです。

令和5年度は北九州市で開催され、来年度は和歌山県で開催される。その次の令和7年度に松戸市で開催される見込みになります。

進展があった際にはご報告させていただきますと共に、緑推進委員会の皆様にご協力を願うこともあるかと思いますが、その際はよろしくお願いたします。

2点目に、ゆいの花公園のクリスマス会のお知らせとなります。

例年、東松戸ゆいの花公園で開催しているイベントで、様々な音楽イベントや講座をしています。残念ながらすでにイベント自体は12月16日に終了しておりまして、約1300人に来場していただいて大盛況でした。

クリスマス会が終わってしまっておりますけれども、イルミネーションは12月24日までやっていて、時間は16時30分から19時となっております。

**会長**

全国みどりの愛護のつどいについては決定事項ではない状況でしょうか。

**街づくり部：審議監**

現状は国土交通省への開催申請をして、審査中となりますので、決定まではしていません。

**会長**

松戸市で開催となるといいですね。

**事務局**

次回の第9回緑推進委員会は、3月26日の午後2時からの開催を予定しています。

連絡事項は以上となります。

**会長**

ありがとうございます。

これで閉会とします。